



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL:03-5363-3802 FAX:03-3355-4707
発行者：北川雄光
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
和田則仁 (慶應義塾大学医学部外科学教室)
印刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

ごあいさつ

Past President, ISS/SIC
Congress President, ISW2007

慶應義塾大学名誉教授
国際医療福祉大学学長

北島 政樹



Australia の Adelaide において、第42回万国外科学会 は Mayo Clinic の Michael Sarr 教授が Congress President として開催されて、光陰矢の如しというが、早や1年以上が経過した。第43回の Yokohama の学会の開催まで1年を切ったわけである。本年、3月に Frankfurt 及び10月に Washington で ISS の理事会が開催された。丁度、Washington での ACS の開催と併せて、多くの理事が参加するからである。今回は ISDS (国際消化器外科学会) の理事会も開催される。私は3月には出席出来なかったが、今回は Integrated Society として来年参加する ISDS の会長および LOC の名誉会長として理事会に出席した。

特に ISS の Agenda にも記載されていたように、ISS と ISDS の相互関係の明確化、香港からスイスに移動された財務関係及び Integrated Society として ISS からの譲渡金の試算方法など多くの重要課題があった。さらに、学会後にスイス本部が期待する Profit についての日本の微妙な立場、あるいは従来の学会で行われなかったポスターセッションでの討論などを日本の立場から説明する事が重要であった。

特に Profit に関しては、日本学術会議の共催を受けている為、開催式にお

ける皇室関係の御招待、さらには学会協賛金については学術会議会員 (2部副部長) の立場から公的資金の導入などについて Profit の困難性を説明する必要があったためである。

ISS の理事会には Ken Boffard 会長をはじめ、新 Secretary General, Jean-Claude Givel, ISS 事務局の顔とも云うべき Mr. Victor Bertschi, WJS の編集委員長 Dr. John Hunter 及び山川理事、各 Integrated Society の会長などが出席し、プログラムの内容や WJS の実績など議論する事が出来た。確かに WJS に関しては Dr. John Hunter の努力により IF も毎年上昇し、元 ISS 会長として敬意を表した次第である。

さらに LOC の渡邊昌彦会長、PCO から Yokohama 学会に関する報告もなされ、また ACS 期間中、ブースの設置も説明された。

4時間という長時間の ISS 理事会後、前述の ISS と ISDS の種々の問題点を解決する為に Mr. Victor Bertschi を含めた ISDS の理事会がその直後に開催された。本会には President-elect の Dr. Marco Patti, Secretary General の Dr. Tonia Young-Fadok, Treasurer の Dr. Gerry Fried、理事の若林剛、CM Lo 教授等も参加した。特に財務問題に関しては両学会間でのマネーフローの現状が不明確であり、さらに理事会前に ISDS の財務や学会機能を含めた将来像に対し、全理事が危惧を抱いていたことは事実であった。しかし、Tonia や Gerry の鋭い質問に対し、Victor がスライドを用いて説明し、理事会前の多くの危惧が APDW の余剰金の問題を含めて明らかにされたので、遠路はるばる Washington に来た意義を感じる事が出来た。

その後、コンベンションセンターのボールルームに於いて、厳粛の中にも和やかな雰囲気の中で恒例のコンボケーションが行われ、今回日本から21名の新フェローが誕生した。メキシコに次いで第2位の勢力となり、多くの努力をいただいた ACS 日本チャプターの谷川会長、高折事務局長に敬意を表す次第である。

Dear Colleagues

President, ISS/SIC

Ken Boffard



Many events in our tempestuous world have affected us over the last decade; the changing dynamics of 9/11, the asymmetrical wars of the 21st Century, the global recession which fortunately seems now to have an end in sight, volcanic ash, and not least, the changing landscape of surgery itself. Working hours are being reduced, exposure to clinical training is diluted, and the gulf between (super) specialist surgery, predominantly in Europe and developed countries, and the general surgery practiced in many developing countries has widened. The expertise available has to be spread. The International Society has to meet these challenges, and be representative of, and relevant to surgeons from widely differing backgrounds and needs. The Society has become a global organization, and our members represent all aspects of surgery – both by their interests and where they live.

We are striving to strike the right balance between academic surgery, practical surgery, and surgery as applied in the developing world, as well as attracting young surgeons, and those still in training. The future of surgery is in your hands, and those who follow us. We invite you to become part of this initiative, and to contribute to International Surgical Week. We hope that everyone will learn, be stimulated, and give something back.

This is a unique opportunity to join the global surgical community and “Explore the Future of Surgery” while at the same time discovering the hospitality, sights, sounds, food and experiences that make Japan a spectacular destination for 2011. We look forward, with our Japanese hosts and partners, and the Integrated Societies, including our newest Integrated Society, the International Society of Digestive Surgeons, to providing one of the world’s most international and stimulating academic programs.

Put it into your diary as an occasion not to be missed. For those who have never been to Japan, the experience is one of life’s “must do’s.” For those who are being attracted back, welcome back. There will be something for everyone, tourist opportunities are limitless, and the costs are lower than you would expect. Treat yourself.

It is therefore with great pleasure that I invite you to join us in 2011 for the International Surgical Week in Yokohama

ISW2011 報告

President, ISW 2011 LOC
北里大学医学部外科学教授

渡邊 昌彦



早いもので、第44回万国外科学会 (ISW 2011) の開催まで残すところ1年を切り、LOC一同準備に余念がないところです。そのような折、去る10月3日～7日に米国ワシントンD.C.で開催された第96回米国外科医会議 (ACS) におきまして、ISS/SIC理事会も開かれ、ISW 2011組織委員会を代表してISW2011の進捗状況を報告して参りました。学術プログラム、ソーシャルイベント等の予算に関する報告に対し、出席された理事の間で活発な意見が交換されました。白熱した議論の場でISW 2011組織委員会名誉委員長の北島政樹先生からは、格別のお力添えを賜りこの場をお借りして深謝申し上げます。

ACSの展示会場ではISW 2011会長のKenneth D. Boffard先生のご尽力により、ISW 2011として受付横にプロモーションブースを設置させていた

だくことができました。ブースにはISW2011事務局の高橋さんとJCSの藤本さんのお二人が陣取って、立ち寄られる先生方に終始笑顔で対応して下さいました。今回はアデレードのブースとは異なりシンプルな展示に留まりましたが、興味をお持ちの各国の先生が多数ブースに足を運んで下さいました。なかには日本の夏祭りをテーマにしたJAPAN NIGHTなどのソーシャルイベントに興味を持たれた先生方が、熱心に「祭り」の質問をお二人にされる光景がみられました。ISW 2011の2日目に行われるJAPAN NIGHTでは、国内外の先生方やご家族に「日本の夏」を体感し、楽しんでいただきたいと考えております。

ISS/SIC理事会では本学会が変革の時を迎えていることが、幾度となく議論されておりました。ISS/SICは発展途上国の外科医や各国の若手や女性外科医の会員ならびに参加者を大幅に増やすことを、2011年から2015年にかけて段階的目標として据えております。また新しい技術を駆使する試みも始まっております。例えばソーシャルネットワーキングサイト上にISS/SICのページを近日中に立ち上げる予定で、さらにWorld Journal of Surgeryの電子書籍への対応も検討されました。今後も、最先端のコミュニケーション技術を活かして、ISS/SICがさらに発展していくものと確信しました。最後に理事会の席上、会長のBoffard先生が印象深い発言をなさいました。すなわち「International Surgical Weekは、『Congress』ではない。『Destination』だ。」と。私たちが国内外の専門家の学識を収斂し、「外科学の未来を拓くISW 2011」をそのような『Destination』にしたいと新たに決意しました。

ISW2011 ; YOKOHAMA
開催おめでとうございます

東邦大学大森病院
一般・消化器外科教授

島田 英昭



待望の万国外科学会ISS/SIC(International Society of Surgery Société Internationale de Chirurgie)、ISW(International Surgical Week)2011の横浜開催、誠にありがとうございます。横浜開催へ多大なるリーダーシップを発揮されました北島政樹国際医療福祉大学学長ならびに渡邊昌彦北里大学教授、そして日本支部長の北川雄光慶應義塾大学教授に心よりお祝い申

申し上げます。2009年のAdelaideは都合により参加できなかった小生にとりましては2007年のMONTREAL以来4年ぶりのISW参加となります。本邦での開催は、実に34年ぶりとのこと。大変ありがたい機会を得られましたことに深く感謝申し上げます。本邦の外科医が参加するチャンスの多い国際的な外科学会としては、このISWを中心とする万国外科学会と国際外科学会(International College of Surgeons)が代表的な歴史ある学会と理解いたしております。特にこの



Prof. Andre Duranceauのご自宅でのHome Partyにて
(2007 August)

ISWは、各専門分野の国際的学会(Integrated Society)からのレビュー講演に該当する特別セッションが大変魅力的な学会であり、会期中に最新のトピックスを短時間で俯瞰できるまたとない機会だろうと思います。

2007年のMONTREALでは、Prof. Fergusonからのご指示で”3-field lymph node dissection (ISDE Main Session)”の講演をさせていただいたのが大変良い経験となりました。ISW会期中には、自分の専門外の領域についても詳細にup to dateの講演を聴くことができましたことは大変有意義でございました。来年には、東邦大学の外科医としてはまさに幸運にもすぐお隣の横浜の地で、LOC渡邊昌彦教授のもとに、この素晴らしい学会が開催されることとなりました。現役の外科医にとりまして、特に若い外科医の方々には、国際学会を経験する上で大変幸運なことと思われま



選択的NK1受容体拮抗型制吐剤
EMEND®
アプレピタントカプセル
カプセル125mg
カプセル80mg
カプセルセット
注)注意—医師等の処方せんにより使用すること
© Trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

新発売

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。



資料請求先

小野薬品工業株式会社
〒641-8584 大阪府中央区久太郎町1丁目8番2号

100501

第29回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 第3回 ISW2011組織委員会 議事録

2010年4月10日土曜日 午前7:00～7:50
於：名古屋国際会議場 1号館3階 会議室131+132

出席者：愛甲 孝、青山 法夫、安藤 暢敏、池口 正英、池田 正、井本 滋、岩崎 博幸、岩瀬 克己、岩中 督、臼杵 尚志、宇田川晴司、宇山 一郎、海野 倫明、遠藤 格、大辻 英吾、大坪 毅人、大柳はるまさ、岡 正朗、岡島 正純、岡本 高宏、小川 健治、奥田 準二、小澤 壯治、片田 夏也、加納 宣康、上西 紀夫、亀岡 信悟、北川 博昭、北川 雄光、北島 政樹、北野 正剛、木村 理、楠 正人、工藤 進英、國崎 主税、窪田 昭男、窪田 敬一、熊谷 一秀、蔵並 勝、桑野 博行、小谷 穰治、後藤 満一、小西 敏郎、小西 文雄、小山 勇、近藤 哲、今野 弘之、坂井 義治、佐々木 巖、島田 光生、嶋田 裕、島津 元秀、清水 一雄、杉岡 篤、鈴木 眞一、曾和 融生、高見 博、田口 智章、田尻 孝、田中 淳一、田中 真二、田中 雅夫、谷川 允彦、田淵 崇文、丹黒 章、千々岩一男、中尾 昭公、中村 慶春、中村 清吾、梨本 篤、夏越 祥次、西田 俊朗、馬場 秀夫、比企 直樹、比企 能樹、平川 弘聖、福富 隆志、藤森 実、堀口 明彦、前田耕太郎、前田茂人、幕内 博康、松田 政徳、松原 久裕、真船 健一、丸田 守人、水本 龍二、宮内 昭、宮崎 勝、宮澤 光男、宮島 伸宜、村尾 佳則、森 俊幸、森 正樹、森川 康英、守瀬 善一、矢永 勝彦、山上 裕機、山川 達郎、山口 幸二、山下 浩二、山本 雄造、若林 剛、和田 則仁、渡邊 昌彦(敬称略：五十音順)(事務局：和田、杉木)

1. 開会の挨拶：北川雄光日本支部長
2. 前回議事録確認
3. 決算・予算案(事務局)
原案(ニュースレター30号に掲載)通り承認された。
4. 機関紙 World Journal of Surgery について(北川支部長)
昨年からは ISDS の機関紙も兼ねている。日本から国立がんセンターの片井均先生が associate editor に承認された。
5. ISW2011 について：
理事会報告(渡邊昌彦 LOC 会長)：3月18日～20日、フランクフルトで ISS/SIC の理事会が行われた。アデレードでの ISW2009 は赤字にならなかった。ISW2011 に関して agreement を無事締結した。日本からは 116 名の組織委員、21 の後援団体が準備している。プログラムは資料①の通り。80 社に働きかけランチョン等を企画する。9月1日は外科学会とのジョイントシンポジウム、Gray Turner Lecture、閉会式等がある予定。8月には演題募集を開始し、1月15日を締切にする予定である。数多くの方に参加していただけるよう協力をお願いしたい。
プログラムの進捗(事務局片田夏也先生)：配布資料のごとく、各 Integrated Society に対応する国内学会として、IAES は日本内分秘外科学会(高見教授)、IATSIC は日本救急医学会(行岡教授、合同で動物を用いたデモを行う予定)、BSI は日本乳癌学会(園尾教授)、IASMEN は日本静脈経腸栄養学会・日本外科代謝栄養学会(大柳教授)、ISDS は北島会長・若林理事(5月の DDW でプログラムを決める予定)が窓口になる。Participating Societies は WOFAPS (日本小児外科学会)、ISBI (行岡教授)、APIMSF (自衛隊中央病院小林先生)、

IFSES/EAES (山川教授、北野教授)、AWS (日本女性外科医会) が担当している。プログラムは4月30日が提出期限である。参加登録費は別紙のごとく設定しており、日本のドクターは安く設定している。日本人は40歳以下はトレイニー料金とする予定であり、若いドクターには是非積極的に参加してほしい。学生は無料。Japan Night は8月29日で参加費は1万円程度の予定。ISS メンバーの日本人は、日本人料金となる。

国内後援学会の単位認定・広報(渡邊昌彦 LOC 会長)：本学会参加が専門医制度の単位となるよう申請している。後押しをお願いしたい。ポスター・チラシを配布している。

6. その他

高見博教授：会員募集をお願いしたい。

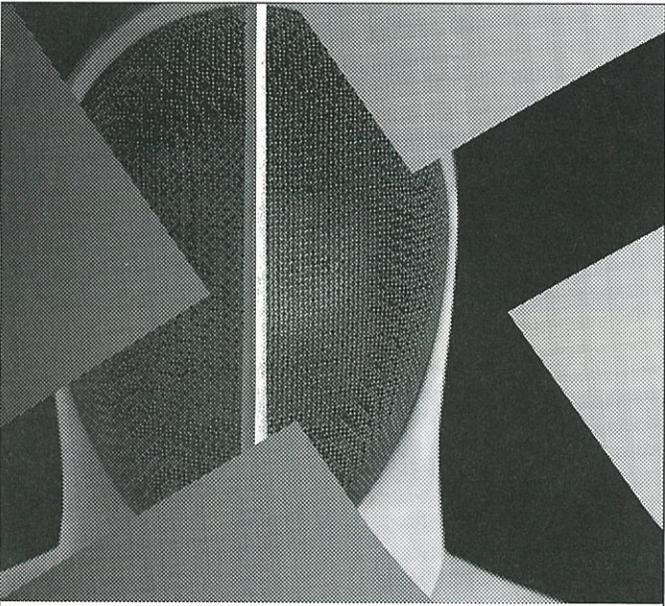
北川支部長：本会開催に当たり中尾昭公会頭にお世話いただいた。

北島会長：ISW の先生方にとっては ISDS のメンバーにもなっていただき、ISW のパネリストや司会者としてご活躍いただきたい。

7. 次回日本支部総会：北川雄光支部長

来年11月23日(火)朝7時を予定している。

以上
(文責 和田則仁)



カルバヘナム系抗生物質製剤 ———— 処方せん医薬品(注1) [薬価基準収載]

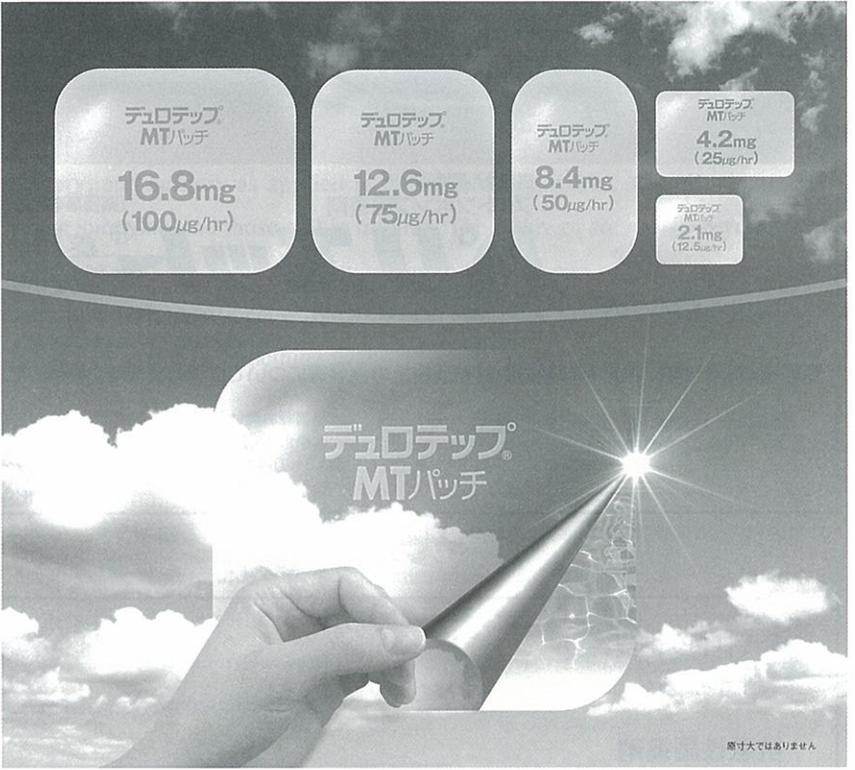
フィニバックス® 点滴用0.25g
キット点滴用0.25g

FINIBAX® (注射用ドリベナム水和物 略号：DRPM)
注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

■「効能・効果」、「用法・用量」、
「禁忌」、「原則禁忌」、「使用上の注意」等については添付文書等をご参照下さい。

製造販売元 [資料請求先]
シオノギ製薬
大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045
電話 0120-956-734 (医薬情報センター)
http://www.shionogi.co.jp/med/

®:登録商標 2009年10月作成 B71



デュロテップ® MTパッチ
16.8mg (100µg/hr)
12.6mg (75µg/hr)
8.4mg (50µg/hr)
4.2mg (25µg/hr)
2.1mg (12.5µg/hr)

デュロテップ® MTパッチ

経皮吸収型 持続性疼痛治療剤

創薬 麻薬 処方せん医薬品*

デュロテップ® MT パッチ
Durotep MT Patch 一般名：フェンタニル 薬価基準収載

*注意 — 医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)
ヤンセン ファーマ株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2
URL: http://www.janssen.co.jp

2010年1月作成

*** 万国外科学会日本支部ホームページ開設のお知らせ ***

2010年6月26日に万国外科学会日本支部のホームページを開設しました。

URL : <http://web.sc.itc.keio.ac.jp/surgery/ggs/iss-sic/>

ホームページの内容

- ・ 日本支部役員の紹介
- ・ ニュースレターのバックナンバー
- ・ 日本支部の活動内容
- ・ 万国外科学会入会のメリット
- ・ 入退会の手続き
- ・ リンク (万国外科学会スイス本部等)

最新の情報を掲載しています。是非、ホームページをご利用下さい。

※ホームページより入会の手続きが出来ます。
URL : <http://web.sc.itc.keio.ac.jp/surgery/ggs/iss-sic/application.htm>



Pariet®

処方せん医薬品*
プロトンポンプ阻害剤

パリエット®錠 10mg
錠 20mg

〔薬価基準収載〕
〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉

*注意—医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 **Eisai** エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先:
お客様ホットライン
☎ 0120-419-497 9~18時(土、日、祝日9~17時)

PRT1009C20

本広告の象は、映画「星になった少年」(2005年公開)に出演したアジア象の「ランディ」です。なお、耳と牙は別のアフリカ象との合成です。

5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤 薬価基準収載

劇薬、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

アロキシ® 静注 0.75mg
Aloxi® I.V. injection 0.75mg

パロノセトロン静注製剤

効能・効果、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量、用法・用量に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

資料請求先 (医薬品情報室) 提携先
TAIHO 大鵬薬品工業株式会社 **HELSINN** スイス
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
<http://www.taiho.co.jp/>

2010年11月作成

CHUGAI 中外製薬 | **at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY**

Roche ロシュ グループ

抗悪性腫瘍剤
劇薬、処方せん医薬品(注) 薬価基準収載

ゼロダックス® 錠 300

Xeloda® カベシタビン錠

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること
® F. ホフマン-ラ・ロシュ社(スイス)登録商標

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。
<http://www.chugai-pharm.co.jp>

製造販売元 **中外製薬株式会社** | (資料請求先) 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

2009年9月作成

血漿分画製剤(凍結・静注用免疫グロブリン製剤) 薬価基準収載

献血ウエノグロブリン® IH 5% 静注 0.5g/10mL・1g/20mL
2.5g/50mL・5g/100mL

Venoglobulin IH 5% (V.0.5g/10mL・1g/20mL・2.5g/50mL・5g/100mL) 製剤 (生物学的製剤基準 凍結ウエノグロブリン)

特許生物由来製剤 | 処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 (資料請求先) **株式会社ベネシス**
大阪市中央区北浜2-6-18

販売 **田辺三菱製薬株式会社**
大阪市中央区北浜2-6-18

VGX-2010年3月作成